

Course number		G-LAS10 80020 LB34					
Course title (and course title in English)		人新世の哲学 Philosophy in the Anthropocene		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability Program-Specific Associate Professor, SHINOHARA MASATAKE	
Group		Interdisciplinary Graduate Courses		Field(Classification)		Humanities and Social Sciences	
Language of instruction		Japanese and English		Old group		Number of credits 2	
Number of weekly time blocks		1	Class style		Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters 2025・First semester
Days and periods		Thu.3		Target year		Graduate students Eligible students For all majors	
(Students of Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)							
[Overview and purpose of the course]							
<p>温暖化、パンデミック、豪雨、海面上昇など、人間をとりまく自然環境のあり方が不安定化するなか、人間の活動のあり方、人間が生きる条件について、考え直すことが求められている。現在、この状況を名指すものとして「Anthropocene人新世（じんしんせい）」という言葉が用いられるようになってきている。「人類の地質学」という自然科学の論文が、2000年代後半に人文科学の領域で受容され、発展を遂げつつあるというのが現状である。本講義では、第一に、人新世に関連する現代の人文科学・哲学の著作、文献を参照し、そこでこのテーマがどのように扱われているかを解説することを目的とする。そこではまず、ディペッシュ・チャクラバルティが2021年の著作『惑星時代における歴史の気候』などで展開する、「人間の条件の問い直し」という哲学的な問題を中心にして議論を展開する。人間存在の基本を揺さぶるようになった自然を前にしたときその存在条件に関わる思考のあり方を問い直し、新しいものへとバージョンアップすることが求められると考えるからである。チャクラバルティとの関連で、ティモシー・モートンのエコロジー思想を論じるが、これが重要なのは、人新世の現実を「人間が経験しているのにもかかわらず人間の通常理解を超えている現実」と捉え、そこに関与するための思考の可能性を問うものだからである。「人新世で生きる人間とはどのようなものか」という問いをめぐる考察を深めることを目的に、「人新世」をめぐる議論が何を意味するのか、「人新世」を語ることの意義とはなにかをも問い、人新世についての哲学的・人文科学的考察についての一定の理解の仕方を提示することを目指す。</p>							
[Course objectives]							
<p>「人新世」に関する哲学的・人文科学的な研究の現状を体系的に理解する。のみならず、講義中に紹介するさまざまな文献の読解を通じ、そこで何が問題になっているかを自分なりに問いつつ考えることで、「人新世」で生きるとはどのようなことか、そこで人間の存在条件を問い直すとしたらそれはどのようなものになるかを主体的に想像し、考えることができるようになる。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. なぜ人新世なのか。 3. チャクラバルティの「歴史の気候：四つのテーゼ」論文をめぐって 4. 人文科学における「人新世」の衝撃(1)人間の世界の「外部」との接触 5. 人文科学における「人新世」の衝撃(2)人間と自然の区分の崩壊 6. 人新世における人間の変容：脆さの問題、「生存可能性(habitability)」をめぐって 7. 人新世における世界の二面性：globalとplanetary 8. 人新世における時空(地質的時間)のなかの人間 							
Continue to 人新世の哲学(2)							

人新世の哲学(2)

-
9. エコロジカルな共存：ティモシー・モートンの哲学（１）
 10. ハイパー・オブジェクト：ティモシー・モートンの哲学（２）
 11. Humankind：ティモシー・モートンの哲学（３）
 12. 人新世における近代の問題：人為の論理とその限界
 13. 人新世における表象の問題：表現の物質性をめぐって
 14. 人新世と翻訳の問題：西洋の言語と非西洋の言語
 15. フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

レポート試験。

[Textbooks]

授業中、適宜文献を紹介する。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業中紹介した文献などを自分で読むことをおすすめする。

[Other information (office hours, etc.)]